

京セラ株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業 種：製造業● 事業概要：電子部品製造業● 事業規模： 売上高(連結) 1,422,754百万円 (2017年3月期) グループ会社数 231社 (京セラ(株)含む。2017年3月31日現在) グループ従業員数 70,153名 (2017年3月31日現在)
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	(SBTの目標値をSDAと総量削減手法を用いて算出した。また、気候変動の抑制に貢献するため、京セラグループの将来のGHG排出量を想定し、対策を検討している。今後、GHG削減目標を設定する方向で検討中であり、目標を設定次第、公開する予定。)

京セラ株式会社

項目	内容																																								
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況(2016年度実績における状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 2.1% 																																							
	<table border="1"> <caption>GHG Emissions by Category (2016)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Description</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cat.1</td> <td>購入した製品・サービス</td> <td>62.4%</td> </tr> <tr> <td>Scope2</td> <td>Scope2</td> <td>17.5%</td> </tr> <tr> <td>Cat.11</td> <td>販売した製品の使用</td> <td>10.7%</td> </tr> <tr> <td>Cat.2</td> <td>資本財</td> <td>2.9%</td> </tr> <tr> <td>Cat.3</td> <td>Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>Cat.4</td> <td>輸送、配送(上流)</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>Cat.5</td> <td>事業から出る廃棄物</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>Cat.6</td> <td>出張</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>Cat.7</td> <td>雇用者の通勤</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>Cat.8</td> <td>リース資産(上流)</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat.9</td> <td>輸送、配送(下流)</td> <td>0.001%</td> </tr> <tr> <td>Cat.12</td> <td>販売した製品の廃棄</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Description	Percentage	Cat.1	購入した製品・サービス	62.4%	Scope2	Scope2	17.5%	Cat.11	販売した製品の使用	10.7%	Cat.2	資本財	2.9%	Cat.3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	2.6%	Cat.4	輸送、配送(上流)	0.6%	Cat.5	事業から出る廃棄物	0.3%	Cat.6	出張	0.2%	Cat.7	雇用者の通勤	0.5%	Cat.8	リース資産(上流)	0.1%	Cat.9	輸送、配送(下流)	0.001%	Cat.12	販売した製品の廃棄	0.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 17.5%
	Category	Description	Percentage																																						
Cat.1	購入した製品・サービス	62.4%																																							
Scope2	Scope2	17.5%																																							
Cat.11	販売した製品の使用	10.7%																																							
Cat.2	資本財	2.9%																																							
Cat.3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	2.6%																																							
Cat.4	輸送、配送(上流)	0.6%																																							
Cat.5	事業から出る廃棄物	0.3%																																							
Cat.6	出張	0.2%																																							
Cat.7	雇用者の通勤	0.5%																																							
Cat.8	リース資産(上流)	0.1%																																							
Cat.9	輸送、配送(下流)	0.001%																																							
Cat.12	販売した製品の廃棄	0.2%																																							
	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 80.4% 																																								

京セラ株式会社

項目	内容
<p>4.気候変動によるリスクと機会の分析</p>	<p><u>リスク</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動の影響により、台風被害増加や疾病対策の強化が懸念される。 ● 一部顧客はESGに積極的であり、今後、多くの顧客からGHGの削減要請が懸念される。 <p><u>機会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全世界的に、気候変動問題への解決策の一つとして再生可能エネルギーの積極的な推進が図られており、当社の太陽光発電ビジネスの更なる拡大と、省エネ製品の拡販が見込まれる。 ● GHG削減を進めることで顧客要求を満たし、ビジネス拡大を図ることができるとともに、外部評価の向上が期待される。
<p>5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 京セラグループとして排出量削減目標を設定することで、気候変動の抑制に貢献する。 ● さらに、SBTを策定することで、顧客や投資家からの削減要請に応える姿勢を示し、ビジネスチャンスの拡大を期待する。

京セラ株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 各部門から、GHG削減に関する顧客の要求事項を収集し、GHG削減の重要性を認識した。● SDAツール、および総量削減目標の算出方法を用いてSBT目標値と、京セラグループの将来の推定GHG排出量を算出した。● グループ拠点所在国の再エネ導入予測と、省エネ活動の推進、再エネ導入想定量を整理し、GHG排出削減量を検討した。● SDA、総量削減手法を用いて算出した目標値に対し、対策検討を進めたが、本支援事業の期間においてはSBT策定に至らなかった。今後も継続して検討を進める。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 今後、社会情勢や新技術の情報収集を進め、継続してGHG削減目標の検討を進める。● Scope3のカテゴリ1の削減を進めるには、サプライヤーの協力が不可欠だが、サプライヤーとの協力体制を作る手法の検討が必要。